perplexity

アキレス株式会社の新中期経営計画（FY25～FY27）の分析と評価

アキレス株式会社は2025年5月12日に『中期経営計画 －FY25～FY27－』を公表しました。本報告書では、この新中期経営計画の内容を詳細に分析し、成長性、リスク、海外展開、人材戦略、知財・無形資産戦略の観点から評価します。新計画は、同社がグローバルソリューションプロバイダーとしての地位を確立するための重要な道筋を示すものとなっています。

新中期経営計画の概要と財務目標

アキレス株式会社の新中期経営計画は、2027年度に売上高880億円、営業利益30億円、ROE 5％以上の達成を目標として掲げています[1]。さらに長期的には、2030年度に売上高1,000億円規模、営業利益50億円規模、ROE 7％以上を目指しています[1]。この計画は、同社が「グローバル ソリューション プロバイダー」として世界に驚き・喜び・感動を提供し、人々の生活を豊かにするという長期的なビジョンに基づいています[1]。

新中期経営計画では、3つの全社戦略が掲げられています：

1. 選択と集中の徹底
2. 新たな価値の創造
3. グローバル戦略の推進[2]

これらの戦略に加えて、事業基盤の高度化（人材力や生産性・技術力等の向上）を通じて事業ポートフォリオ変革の実現に最優先で取り組み、サステナビリティ経営を推進しながら収益力の再構築・強化に取り組む方針を示しています[2]。

業績動向と成長性の評価

現在の業績状況

新中期経営計画の発表に合わせて公表された2025年3月期の連結決算では、最終損益が4億2700万円の黒字となり、前期の82億1000万円の赤字から大幅に改善しています[3]。しかし、営業損益は4億3600万円の赤字（前期は9億5800万円の赤字）、経常損益も2億2000万円の赤字（前期は1億7100万円の赤字）と、本業における収益性の課題が依然として残っていることがわかります[3]。

2026年3月期の業績予想と成長性

2026年3月期については、売上高810億円（前期比2.4％増）、営業利益15億円の黒字（前期は4億3600万円の赤字）、経常利益13億円の黒字（前期は2億2000万円の赤字）、純利益8億円（前期比87.4％増）を見込んでいます[3] [4]。これは、新中期経営計画の初年度から黒字転換を図る意欲的な目標であり、収益構造の改善に向けた取り組みが進められていることを示しています。

また、年間配当も前期比10円増の30円に増配する方針を示しており[5]、株主還元にも積極的な姿勢がうかがえます。これは新中期経営計画への自信と、将来の成長に対する確信を示すものと考えられます。

リスク要因分析

新中期経営計画の実現に向けては、いくつかのリスク要因が存在しています。同社も「地政学的リスクのさらなる高まりを背景に先行き不透明な経営環境が続くことが予想される」と認識しています[2]。

特にシューズ事業においては、販売費の削減等に努めたものの、円安による仕入れコストの増加等によりセグメント損失が9億7200万円となっており[3]、為替変動リスクが業績に大きな影響を与えています。このようなコスト増加要因をどのように管理し、収益性を確保していくかが重要な課題となっています。

また、四半期ごとの業績を見ると、直近の2025年1-3月期（4Q）の連結経常損益は7.5億円の赤字（前年同期は1.9億円の赤字）と赤字幅が拡大しており[5]、収益基盤の安定化にはさらなる取り組みが必要と考えられます。

グローバル戦略と海外展開

現在の海外展開状況

アキレスはすでにアメリカや中国各地に営業拠点、製造拠点を展開しており、北米、欧州、東南アジアなどに製品を輸出して高い評価を得ています[6]。新中期経営計画では、この海外展開をさらに強化する方針が示されています。

新中期経営計画におけるグローバル戦略

今後の海外展開については、M&A、アライアンスも活用しながら、市場の拡大と新規事業の発掘に取り組む計画です[6]。特に、環境問題などの世界的課題を解決するソリューションの提案や、防災対策、医療分野など各国・各地域のニーズに対応する製品の展開を通じて、「世界規模でアキレスファンの拡大を目指す」としています[6]。

中期経営計画の3つの全社戦略の一つに「グローバル戦略の推進」が含まれていることからも[2]、国際市場における事業拡大が同社の成長戦略の重要な柱となっていることがわかります。

人材戦略と組織開発

新中期経営計画の実現に向けた人材戦略として、アキレスは「リーダーシップを発揮できる人材の育成」と「仕事の付加価値を高めることのできる人材の育成」を大きな柱としています[7]。

特にグローバル人材の育成に注力しており、海外事業所への短期派遣を軸とした育成プログラムを実施しています[7]。このプログラムでは、語学力だけでなく、海外に通用するビジネススキルや現地の文化、慣習などを体得することが目指されており、急速に進行しているグローバル化に対応するための人材育成に取り組んでいます[7]。

また、社員のステップアップに応じた教育制度（新入社員研修、年次別・階層別研修、社外研修、語学・通信研修、資格研修、海外研修など）を設けており[7]、人材への継続的な投資を通じて組織力の

強化を図っています。

知財・無形資産戦略

アキレスの知財戦略については、2025年の特許取得件数ランキングでは第1664位（4件）となっています[8]。最近の特許取得例としては、マットレス、導電性合成皮革、防災用マットレス、断熱材用袋体、靴といった製品に関するものがあります[8]。

これらの特許は同社のコア技術であるプラスチック加工技術を活かした製品開発に関するものであり、同社の技術的優位性を維持するための取り組みと考えられます。新中期経営計画では「新たな価値の創造」が全社戦略の一つに掲げられており[2]、今後も技術開発と知財保護の取り組みが強化されると予想されます。

関係者からの評価と市場反応

公開された検索結果には投資家・業界関係者・メディア・アナリストからの直接的な評価コメントは含まれていませんが、同社の株価動向や業績予想の推移から市場の反応を間接的に推測することができます。

同社は2026年3月期に黒字転換と増配を予想しており[3] [5]、これは新中期経営計画の実現可能性に対する経営陣の自信を表しているといえます。しかし、当面の課題として収益基盤の安定化と強化が必要であることも明らかになっています。

結論

アキレス株式会社の『中期経営計画 －FY25～FY27－』は、同社が「グローバル ソリューション プロバイダー」として持続的な成長を実現するための明確な道筋を示したものです。3つの全社戦略（選択と集中の徹底、新たな価値の創造、グローバル戦略の推進）を軸に、事業ポートフォリオの変革と収益力の再構築・強化に取り組み、2027年度に売上高880億円、営業利益30億円、ROE 5％以上の達成を目指しています。

課題としては、地政学的リスクや為替変動などの外部環境要因への対応、シューズ事業の収益性改善、収益基盤の安定化などが挙げられますが、グローバル展開の強化や人材育成への取り組み、技術開発と知財保護の推進などにより、これらの課題を克服し、持続的な成長を実現することが期待されます。

新中期経営計画の実現に向けた同社の取り組みとその成果は、今後も注目に値するものといえるでしょう。

⁂

1. https://www.achilles.jp/assets/pdf/news/newsrelease/2025/05122.pdf
2. https://www.achilles.jp/assets/pdf/ir/library/settlement/2505121.pdf
3. https://www.nikkei.com/article/DGXZRST0535313Y5A500C2000000/
4. https://kabuyoho.jp/sp/reportAnalyst?bcode=5142
5. https://s.minkabu.jp/news/4220432
6. https://www.achilles.jp/company/global/
7. https://www.achilles.jp/company/hrd/

8. https://ipforce.jp/applicant-665